

漢方薬・中薬解説

漢方薬 (漢方医学)

漢方医学と漢方薬の特徴

漢方医学とは、5～6世紀頃に中国から日本へ伝来した医学が、室町から江戸時代以降に独自の発展を遂げたものです。日本の気候・風土や日本人の体質・生活習慣を反映しながら進化を続け、今日では先人たちの治療経験が集積された「日本の伝統医学」として確立されています。

その最大の特徴は、心と身体を一体で捉え、身体全体の「調和」を図る全人的な医療として体系化されている点です。漢方の診察では、患者様一人ひとりの病状（訴え）や体質を重視し、その結果から薬の調合と服用法を指示します。医学が進歩した現代においても、検査では異常が見つからない「不調」や、西洋医学では対応しにくい「不定愁訴」が存在します。漢方医学は、こうした治療を得意としています。

漢方医学に用いる漢方薬は、自然界にある植物や動物、鉱物などの生薬を、原則として複数組み合わせで作られた薬です。したがって、1剤に複数の成分が含まれており、複数の症状にも効果が期待できます。漢方医学に基づき処方する条件が細かく定められており、治療効果のある医

薬品として、正式に認められています。

現在、医療機関で処方されている漢方薬の大部分は、健康保険が適用される「医療用漢方製剤」であり、計148処方厚生労働省に認可されています。しかも、日常診療で漢方薬を使用している医師の割合は、8割以上*になっています。一例として、がん患者らに西洋薬と漢方薬を併用することで、副作用の軽減や苦痛を和らげる効果がみられ、治療完遂率が向上するケースが、数多く報告されるようになっています。

*出所：日本漢方生薬製剤協会 漢方薬処方実態調査2011

日本で承認されている漢方処方

医療用漢方製剤：148処方（保険適用）
うち、ツムラでは129処方販売
一般用漢方製剤：294処方
うち、ツムラでは46処方販売

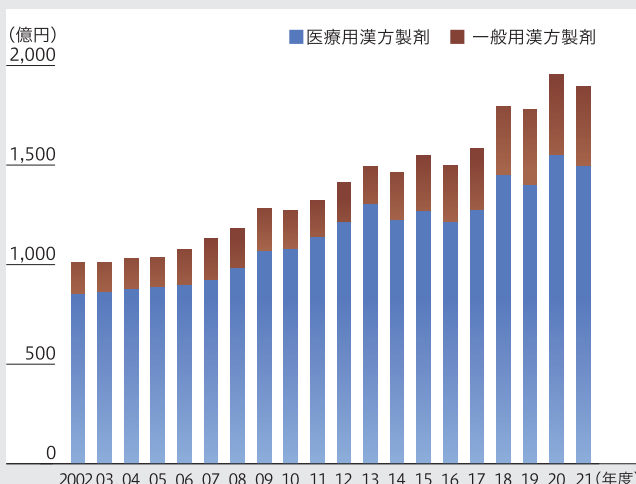
漢方についての詳細は、右記のWebサイトもご参照ください <https://www.tsumura.co.jp/kampo/index.html>

漢方薬市場の動向

左下のグラフは、日本での漢方製剤の生産金額を示したものです。漢方薬の市場規模は、過去20年間で約1.9倍に拡大していることがわかります。なお、医薬品市場全体に占める漢方製剤の比率は、約2.1%（2021年度、生産金額ベース）になっています。

一方、右下のグラフはエムスリー株式会社が運営するポータルサイトで、同社が医師会員を対象に「漢方を処方する機会が多い疾患・病態」についてアンケートを実施した際の集計結果です。

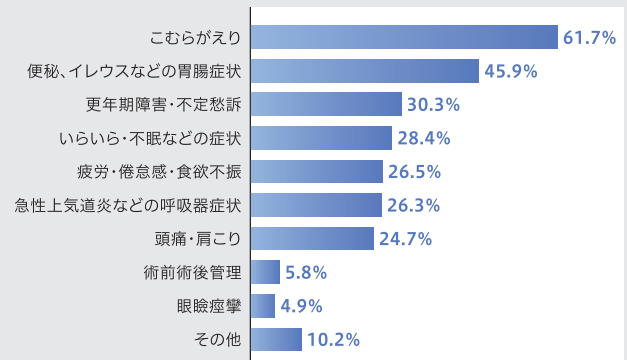
漢方製剤生産金額推移



出所：厚生労働省「令和3年 薬事工業生産動態統計年報」

漢方を処方する機会が多い疾患・病態

設問：「漢方を処方する際に、どの疾患・病態に出すことが多いですか？」(複数選択)



出所：「m3.com意識調査」(臨床ニュース 2022年11月15日)
<https://www.m3.com/clinical/news/1093498>
※本データはエムスリー株式会社の許諾のもとに掲載しています
(調査の概要)
調査期間：2022年10月8日-10月14日 対象：m3.com医師会員
回答者総数：勤務医532人、開業医158人

中薬（中医学）

中医学の起源と発展

中医学（中国の伝統医学）の起源は紀元前1,300年以上前、中国最古の夏王朝に次ぐ殷王朝の時代と言われていいます。その後、漢王朝の時代に、基礎医学と臨床医学を扱う「黄帝内経」、薬物学書「神農本草経」、医学書「傷寒論」という中医学の三大古典が成立し、基盤を確立しました。現在の中国では、中医学の教育カリキュラムが整備され、研究拠点も設立されるなど、国を挙げて中薬の発展を推進しています。

中国では、西洋医学と中医学の医師免許が別建てになっています。西洋医学を学ぶ医学部と、中医学を学ぶ中医学部があり、卒業後にインターンを経て医師免許の受験資格が与えられ、合格するとそれぞれの医師免許を取得できます。西洋医師は西洋薬（新薬）の処方だけでなく、一定条件を満たした場合、中薬飲片（刻み生薬）を製剤化した中成薬の処方も可能です。中醫師も、中薬だけでなく西洋薬の処方できます。

中薬、古典処方に関する中国の政策動向

2022年1月、中国政府は「第14次五か年医薬工業発展計画」を公表しました。この計画の中には、中医薬・中薬の発展を後押しする政策の方向性についても記載されています。その主な内容は、以下のとおりです。

- ・中国医学と西洋医学の結合を促進
- ・中医薬文化の繁栄と発展を推進
- ・中医病院、中医の増加を促進
- ・有効成分に基づく古典処方の研究開発を推進
- ・生薬の品質向上、トレーサビリティの強化
- ・中薬の市場競争環境を改善し、品質指向の市場価格の形成を促す

中薬の分類

【中薬】

処方薬

- 中成薬処方薬
- 中薬飲片

OTC

- 中成薬OTC

【食品】

健康食品

- 薬食同源など

中薬は、およそ2,700年あまり前から中医学で扱われている薬の総称です。漢方薬と同様、自然界にある植物や動物、鉱物などを原料に用いて製造されています。中医学は、三大古典をはじめ漢王朝の時代から伝わる理論に基づきながらも、時代ごとの流行病などを検証し、新たな治療法が医学体系に組み込まれていきました。その結果、たくさんの処方が生まれ、絶えず新しい中成薬が開発されています。

また、中薬は西洋薬と同様に、処方薬とOTC^{*1}（非処方薬）に分類されます。

中薬の処方薬は、「中成薬処方薬」と、原料生薬を炮製^{*2}した後、中医臨床または製剤生産に使用する処方薬である「中薬飲片」があります。中薬ではなく食品の分類となりますが、養生（予防）を目的として、生薬を使った健康食品などがあります。

*1 Over The Counterの略で、医師の処方箋なしで購入できる一般用医薬品と要指導医薬品

*2 不要な成分を除いて有効成分を抽出する目的、あるいは毒性の軽減などを目的として、一定の加工調製を行うこと

中薬市場の動向



出所: 中国国家薬品監督管理局、中国工業情報部、中国統計局データよりツムラで作成
1人民元=19.05円(2022年12月末時点)で換算

*3 中国国家薬品監督管理局により公布され、国家により薬品品質を保証し、かつ人民による薬物使用の安全性と有効性、品質制御性を保証するために制定された薬品法典
*4 清朝時代以前に編纂された古医書に記載されている処方

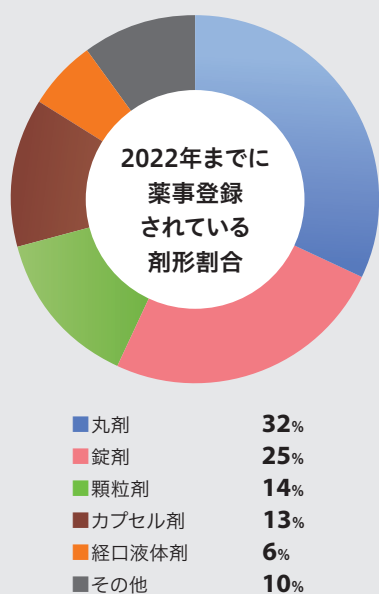
中国国内の中薬市場は約14兆円あり、日本の漢方・生薬市場の40倍以上もの規模です。そのうち中成薬(医療用・一般用)の市場は約10兆円、原料生薬・中薬錠片の市場は約4兆円です。

「中成薬」は、古代から現代までの中薬の処方を基本とし、多くの患者様に対応できるように製剤化された処方です。現在、中国国内で約9,000処方に対して製造・販売が承認されています。そのうち、中国薬典^{*3}収載処方が約1,600処方あり、古典由来の処方^{*4}が約300処方含まれています。

「中薬錠片」は、中医薬の理論に基づき、中薬材を修治加工した中医の臨床に直接使われる中薬です。原料となる主な中薬材は約600種類あり、異なる修治方法で加工された中薬錠片は600種類を遥かに超えます。

なお、中国政府は政策として古典処方に基づく中薬の複方製剤を重点的に開発し、中薬の研究開発や品質レベルの向上を支援・強化する方針を示しています。中成薬メーカーは約2,400社あり、中薬市場の集中度はそれほど高くありませんが、中薬製薬グループが次第に形成されてきています。

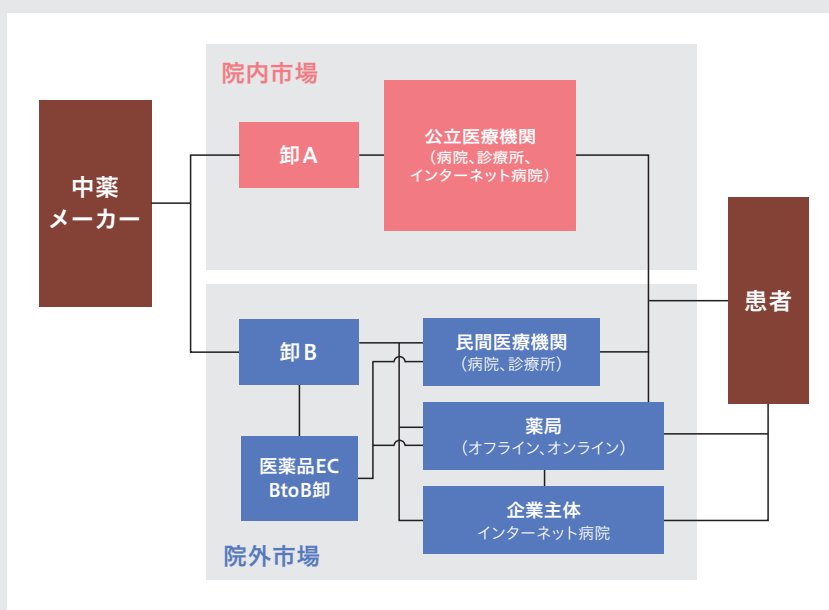
中成薬の剤型



出所: 丁香園データベースより当社で作成

中薬の流通構造

中薬の流通構造は、公立病院を中心とする院内市場と、薬局を中心とする院外市場に大きく分類されます。2019年時点の市場の比率は、院内7:院外3となっています。



会社情報 (2023年3月31日時点)

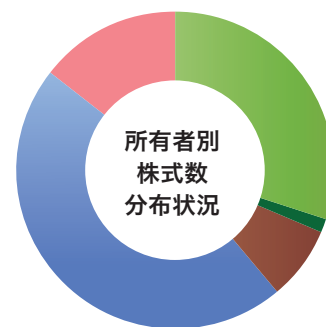
商号	株式会社ツムラ
本社	〒107-8521 東京都港区赤坂二丁目17番11号
創業	1893年4月10日
設立	1936年4月25日
資本金	301億42百万円
連結従業員数	4,032名
決算日	3月31日

上場証券取引所	東京証券取引所プライム市場(証券コード4540)
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
会計監査人	PwCあらた有限責任監査法人
発行可能株式総数	250,000,000株
発行済株式の総数	76,758,362株 (自己株式229,532株を含む)
株主数	20,437名 (前期末比7,529名増)

大株主の状況

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	12,215	15.96
BANK OF CHINA (HONG KONG) LIMITED-PING AN LIFE INSURANCE COMPANY OF CHINA, LIMITED	7,675	10.03
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	3,622	4.73
THE BANK OF NEW YORK MELLON (INTERNATIONAL) LIMITED 131800	2,720	3.56
株式会社三菱UFJ銀行	2,197	2.87
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	2,156	2.82
ツムラグループ従業員持株会	1,772	2.32
BRIGHT RIDE LIMITED	1,692	2.21
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140051	1,539	2.01
JP MORGAN CHASE BANK 380634	1,397	1.83

※持株比率は、自己株式229,532株を控除して計算しています。なお、上記自己株式には役員報酬BIP信託の信託財産として保有する自己株式137,800株は含まれていません



■金融機関*1 30.02%
 ■金融商品取引業者 1.48%
 ■事業法人 7.47%
 ■外国法人等 46.67%
 ■個人・その他*2 14.36%

*1「金融機関」には、役員報酬BIP信託の信託財産として保有する自己株式137,800株を含めています
 *2「個人・その他」には、自己株式229,532株を含めています

編集方針

統合報告書は投資家をはじめとするステークホルダーの皆様へ、中長期的視点でツムラグループの企業価値向上への取り組みをご理解いただくことを目的に発行しています。統合報告書2023は、当社グループの価値創造ストーリーをご理解いただけるように、情報の結合性を重視して制作しました。本レポートは、コーポレート・コミュニケーション室(IR推進グループ)を中心に、全社的に情報を集約・共有化する体制のもと制作しています。

今後もステークホルダーの皆様との対話の中で頂戴した貴重なご意見・情報に基づき、有益で質の高い報告書を目指してまいります。

会社名の表記について

本レポートにおける会社名の表記は以下のとおりです。
 ・ツムラ、ツムラグループ、当社グループ：
 国内外のツムラグループの総称
 ・当社：株式会社ツムラ(単体)

報告範囲と対象期間

パフォーマンスデータは2022年度の実績です。
 株式会社ツムラ/株式会社ロジテムツムラ/株式会社夕張ツムラ(2022年4月1日～2023年3月31日)
 津村(中国)有限公司ほか中国関係会社11社/TSUMURA USA, INC. (2022年1月1日～2022年12月31日)
 集計範囲が上記と異なる場合は、その都度対象報告範囲を明記しています。

コーポレートサイト関連情報



サステナビリティ
<https://www.tsumura.co.jp/sustainability/index.html>



IR情報
<https://www.tsumura.co.jp/ir/index.html>



漢方について
<https://www.tsumura.co.jp/kampo/index.html>

グループ一覽

